

日本イエス・キリスト教団 芦屋川教会
牧師 八幡 直人

テーマ：「人生の終わり」をどのように捉えればいいのか？

聖書箇所：マタイによる福音書 13 章 1～53 節

I. 人生の終わり

人生の終わり＝死(肉体の命が尽きる時)

1. 人は死んだらどうなるのか

よみがえる＝復活(キリスト教)

キリストを信じるなら、よみがえると聖書は宣言している。

聖書：I コリント 15 章 20 節

『しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。』

2. いつよみがえるのか

イエス・キリストの再臨の時 初臨は、マリアから生まれた時。

聖書：I テサロニケ 4 章 16 節

『主ご自身が天から下って来られます。そしてまず、キリストにある死者がよみがえり…』

3. どのようなからだでよみがえるのか

(1)朽ちることのないからだ (2)死ぬことのないからだ 肉体を伴うからだではない

聖書：I コリント 15 章 52～53 節

『死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。…この死ぬべきものが、死なないものを必ず着ることになるからです。』

II. 天国

1. 天国とは、人生が終わった人が行くことができる希望の場所なのか

2. 聖書は何と言っているか

マタイによる福音書 13 章 1～53 節 別紙：「聖書本文」、「整理」参照

イエス様のたとえ話は、何のたとえ話か。

天の御国(＝天国)のたとえ

イエス様は、天の御国のたとえ話の中で、

天国は死んだクリスチャンが行く、別世界だとは説明していない。→中村佐知さんの話
イエス様がたとえで語る天国とは、今生きている私たちの生活のただ中にすでにあり、
御言葉を聞いて悟り実を結び、イエス様に従う者が増えていくことを通して、
生長し、大きくなっていくことが語られている。

また、その中で困難や迫害、思い煩い、富の誘惑、悪魔やそれに従う悪い者とのたたかい
があると言われているが、世の終わりの時(＝イエス様が再臨され、天国が完成する時)に、
悪い者は火の燃える炉に投げ込まれるとも語られています。

さらに、天国は、私たちにとって、何にもかえられない宝であると言われています。

3. 神の国＝天の御国はどこにあるのか

聖書：ルカによる福音書 17 章 21 節

『神の国はあなたがたのただ中にあるのです。』 ※神の国＝天の御国

→イエス様は神の国＝天の御国は、すでに、私たちのただ中にあると明言している。

4. そもそも神の国＝天の御国とは何のか

「国」＝バシレイア(βασιλεία)：ギリシャ語＝「支配」

→「神の国」＝「天の御国」とは、「神の支配」

クリスチャン＝神の国(＝神の支配)に生きる「神の民」、イエス様＝神の国の「王」

私たちは、この世界にあって、神の民として、

神の国を支配する神と、王であるイエス様との交わりの中で日々生きる。

永遠のいのち＝神様とイエス様との交わり 永遠のいのち＝肉体が死なない(不死)ことでない

聖書：ヨハネの福音書 17：3『神であるあなたと、…イエス・キリストを知ること』

※知る＝交わり

Ⅲ. 召されたクリスチャンはどうしているのか—「死後のいのち」パラダイスでイエス様と共に

パラダイスは天国ではない。

召された後、イエス様が再臨し、クリスチャンがよみがえるまでの中間状態。

イエス様は共に十字架につけられた犯罪人の一人に

『あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。(ルカ 23：43)』と約束された。

イエス様を信じた者は、死んだ後、イエス様と共にいる希望がある。

それ(＝死後のいのち)も、死に対するクリスチャンの大きな希望であり、大きな慰めがある。

Ⅳ. 「死後のいのち」の後のいのち＝「Life after “life after death”」

(驚くべき希望 NT ライト p. 249)」

「復活し、死なず朽ちないからだをもって、

神の国＝天の国の完成形である新天新地を相続すること、それが驚くべき希望である。」

Ⅴ. 人生の終わりをどのように捉えるか？—Ⅰコリント 15 章 54～58 節から考える

1. 人生の終わり(＝死)の先にある、からだのよみがえりという希望

→終わり＝死に勝利することができる。

『朽ちるべきものが朽ちない者を着て、この死ぬべきものが死なないものを着るとき、このように記されたみことばが実現します。「死は勝利に呑み込まれた。」…神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。(54～57 節)』

2. いつも主のわざに励むこと

日々、この地上に生かされている限り、共に、主の御言葉に生きる歩み続けること。

『愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。(58 節)』

→生き方の点検 本当にこの生き方でよいのか →ある信徒の方の証

主が私たちとの交わりを通して、神の国を拡大させ、新天新地をもたらしてくださる。

「種を蒔く人」のたとえ話(13：1～9)

1：その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。2：すると大勢の群衆がみもとに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆はみな岸辺に立っていた。3：イエスは彼らに、多くのことをたとえで語られた。「見よ。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。4：蒔いていると、種がいくつか道端に落ちた。すると鳥が来て食べてしまった。5：また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。6：しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。7：また、別の種は茨の間に落ちたが、茨が伸びてふさいでしまった。8：また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍になった。9：耳のあるものは聞きなさい。」

たとえ話をする理由(13：10～17)

10：すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに「なぜ、彼らにたとえでお話になるのですか」と言った。11：イエスは答えられた。「あなたがたには天の御国の奥義を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。12：持っている人は与えられてもっと豊かになり、持っていない人は持っているものまで取り上げられるのです。13：わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。14：こうしてイザヤが告げた預言が、彼らにおいて実現したのです。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることではない。15：この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らがその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒すこともないように。』16：しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。17：まことに、あなたがたに言います。多くの預言者や義人たちが、あなたがたみているものを見たいと切に願ったのに、見られず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと切に願ったのに、聞けませんでした。」

「種を蒔く人」のたとえ話の説明(13：18～23)

18：ですから、種を蒔く人のたとえを聞きなさい。19：だれでも御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。道端に蒔かれたものとは、このような人のことです。20：また岩地に蒔かれたものとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことです。21：しかし自分の中に根がなく、しばらく続くだけで、みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。22：茨の中に蒔かれたものとは、みことばを聞くが、この世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。23：良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」

「毒麦」のたとえ話(13：24～30)

24：イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。25：ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。26：麦が芽を出し実ったとき、毒麦も現れた。27：それで、しもべたちが主人のところに来て言った。『ご主人様、畑には、良い麦を蒔かれたのではなかったでしょうか。どうして毒麦が生えたのでしょうか。』28：主人は言った。『敵がしたことだ。』すると、しもべたちは言った。『それでは、私たちが行って毒麦を抜き集めましょうか。』29：しかし、主人は言った。『いや。毒麦を抜き集めるうちに麦も一緒に抜き取るかもしれない。30：だから、収穫まで両方とも育つままにしておきなさい。収穫の時に、私は刈る者たちに、まず毒麦を集めて焼くために束にし、麦のほうは集めて私の倉に納めなさい、と言おう。』」

「からし種」と「パン種」のたとえ(13：31～33)

31：イエスはまた、別のたとえを彼らに示して言われた。

「天の御国はからし種に似ています。人はそれを取って畑に蒔きます。32：どんな種よりも小さいのですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなって木となり、空の鳥が来て、その枝に巣を作るようになります。」

33：イエスはまた、別のたとえを彼らに話された。「天の御国はパン種に似ています。女の人がそれを取って三サトンの小麦粉の中に混ぜると、全体がふくらみます。」

たとえ話で語る(13：34～35)

34：イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話された。たとえを使わずには何も話されなかった。35：それは、預言者を通して語られたことが、成就するためであった。「私は口を開いて、たとえ話を、世界の基が据えられたときから隠されていることを語ろう。」

「毒麦」のたとえ話の説明

36：それから、イエスは群衆を解散させて家に入られた。すると弟子たちがみもとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。37：イエスは答えられた。「良い種を蒔く人は人の子です。38：畑は世界で、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らです。39：毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫は世の終わり、刈る者は御使いたちです。

40：ですから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのようになります。41：人の子は御使いたちを遣わします。彼らは、すべてのつまずきと、不法を行う者たちを御国から取り集めて、42：火の燃える炉の中に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。43：そのとき、正しい人たちは彼らの父の御国で太陽のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。

三つのたとえ(13：44～50)

「畑に隠された宝のようなもの」(13：44)

44：天の御国は畑に隠された宝のようなものです。その宝を見つけた人は、それをそのまま隠しておきます。そして喜びのあまり、行って、持っている物すべてを売り払い、その畑を買います。

「良い真珠を探している商人のようなもの」(13：45～46)

45：天の御国はまた、良い真珠を探している商人のようなものです。46：高価な真珠を一つ見つけた商人は、行って、持っていた物すべてを売り払い、それを買います。

「海に投げ入れてあらゆる種類の魚を集める網のようなもの」(13：47～50)

47：また、天の御国は、海に投げ入れてあらゆる種類の魚を集める網のようなものです。48：網がいっぱいになると、人々はそれを岸に引き上げ、座って、良いものは入れ物に入れ、悪いものは外に投げ捨てます。

49：この世の終わりにもそのようになります。御使いたちが来て、正しい者たちの中から悪い者どもをより分け、50：火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ざしりするのです。

新しい物と古い物(13：51～52)

51：あなたがたは、これらのことがみな分かりましたか。」彼らは「はい」と言った。52：そこでイエスは言われた。「こういうわけで、天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物と古い物を取り出す、一家の主人のようです。」

53：イエスはこれらのたとえを話し終えると、そこを立ち去り、…

イエス様のたとえ話＝天の御国(天国)のたとえ ※他の箇所では、神の国とも表記。

1. 「種を蒔く人」(1～9)、その説明(18～23)

『御国のことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪います。』

(19)

→心に蒔かれたみことばの種を聞いて悟ると多くの実を結ぶ。

・たとえの説明 種を蒔かれる場所＝人の心、種＝みことば

(1)道端＝みことばを聞いて悟らないと、悪い者が来て、蒔かれたものを奪う。

(2)岩地＝みことばを聞くとすぐに喜んで受け入れる。困難や迫害ですぐつまづく人。

(3)茨＝みことばを聞くが、世の思い煩いと富の誘惑がみことばをふさぐため、実を結ばない人。

(4)良い地＝みことばを聞いて、悟る人のこと。最大、百倍の実を結ぶ。

2. 「毒麦」(24～30)、その説明(36～40)

『天の御国は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。』(24～25)

→イエス様が世界に良い種＝御国の子ら(王であるイエス様に従う者)を蒔いた。ところが人々が眠っている間に悪魔が来て、毒麦＝悪い者の子ら(イエス様に敵する者)を蒔いて立ち去った。世の終わりに、毒麦は集められ火で焼かれる。

たとえの説明(37～40)

(1)良い種を蒔く人＝人の子(イエス様)、(2)畑＝世界、(3)良い種＝御国の子ら、

(4)毒麦＝悪い者の子ら、(5)敵＝悪魔、(6)収穫＝世の終わり、(7)刈る者＝御使いたち

3. 「からし種」(31～32)

『天の御国はからし種に似ています。』(31)

→どんな種よりも小さいが生長すると、どの野菜よりも大きくなる。

4. 「パン種」(33)

『天の御国はパン種に似ています。』(33)

→小麦粉にませると、全体がふくらむ。

5. 「畑に隠された宝」(44)

『天の御国は畑の中に隠された宝のようなものです。』(44)

→持っている物をすべて売り払ってでも宝を得るために畑を買う。

6. 「良い真珠を探している商人」(46)

『天の御国はまた、良い真珠を探している商人のようなものです』(46)

→持っている物をすべて売り払ってでも高価な真珠を買う。

7. 「魚を集める網」(47～50)

『天の御国は、海に投げ入れあらゆる種類の魚を集める網のようなものです。』(47)

→とれた魚を良い魚と悪い魚に選別して、悪い魚を投げ捨てる。世の終わりには、悪い者どもは、火の燃える炉に投げ込まれる。

8. 「自分の倉から新しい物と古い物を取り出す一家の主人」

『天の御国の弟子となった学者はみな、自分の倉から新しい物と古い物を取り出す、一家の主人のようです。』

→新しいと古い物を取り出す。